

苦小牧市医師会

医師

笹出 千秋

## 健康について

古来健康については、実に多くの定義がされている。一つに、健康とは病気でない状態である、という裏か表かの健康観がある。これは現実には割合最近までとられてきた考え方である。この考え方によると、病気を除くことに最大の努力が払われることになる。臨床医学は、その進歩とあいまって大きな成果をおさめ、少なからぬ病気は

## 自分の健康は自分で守る

単に病気や虚弱がないことではない、とされている。なおわが国で原文の翻訳と解釈に議論もあるが、起草者代表(チソルム)によると、盲啞(もうあ)など四重苦で社会活動したヘレンケラーもこの定義に当てはまることと、私は生活を根拠にした健康観と思っている。日本国憲法はその4カ月後に公布され、第25条にこの憲章の精神が

撲滅され、あるいは減少してきている。しかし、一般住民は病気のときの医者任せとなり、また高度化思考で医師に頼る人たちの数が増えます。増え、労力増また財政負担増の状況もみられている。

世界保健機関の健康の憲章(1946年)として、健康とは体、精神また社会的に調和のとれた良い状態であり、そして

うたわれている。国民の健康の保持増進のため、行政的には国の責任、また都道府県、市町村の行うべきことが、この憲法の規定を頂点に多くの法令もつくられ、いろいろの整備もされながら今日に至っている。

私たちのまわりは高齢化、疾病構造の変化、衣食住などの生活様式の変化、また自然環境や社会環境の面からみても複雑多

岐であり、これらの変化は大きくそして急激である。健康とは、病気でない状態との考え方は対処できなくなっている。健康の定義あるいは考え方によって健康づくりのしくみは大きく変わる。地域で生活を根拠にした健康づくりの形成のために行政の役割、保健・医療・福祉の専門家の連携した役割、そしてそれに加えて特に自分の健康は、自分で守るとの認識を基にした住民の参加が求められている。

